

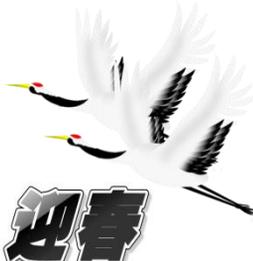
園芸学科通信

第16号



レイカディア大学・米原校

■平成30年 新年最初の「園芸学科通信」(巻算16号)を発行



迎春

あけましておめでとうでございます。新年を迎えたレイカディア大学米原校の最初の必修講座は、一月十一日に行われました。受講のため登校した第39期園芸学科のみさんの顔は、新しい年を迎え、「今年も頑張るぞ」という意気込みが感じられ頼もしく感じられました。園芸学科通信も2回目の正月を迎えました。園芸学科では、レイカディア大学が履修計画に基づいて、「必修講座や選択講座」に取り組んでいますが、その内容は、必修講座より選択講座に関するところを重点的に取り上げてきました。今年もその方向は踏襲しようと考えています。39期生も昨年十月から2回生となりました。上級生となりのレイカディア大学内でも「ホームベジの運用、大学祭、ニュースポーツ大会」等で中心的な役割を担うことになりました。39期園芸学科生は、三九良(さくら)会の名のもと幅広い視野から「親睦を深める」「情報を共有する」と決めています。今後発行する「園芸学科通信」も昨年の発行内容を踏襲し、引き続き発行してゆきます。

■地球温暖化
びわこ地球市民の森

講師：田上 知氏
平塚 英史氏

園芸学科第39期生が受講している前期選択講座の一環として、校外学習を実施しました。今回の講座は、守山市水保町にある滋賀県営都市公園「びわこ地球市民の森」において、課題「地球温暖化とびわこ地球市民の森」をテーマに受講しました。当日は、現地集合、現地解散であったため、あらかじめ決めていたとおり、居住通学地域にあるメンバー数人がつががグループになり、自動車に分乗して守山市に向かいました。校外学習は、一月二十三日(火) 九時五十分、びわこ地球市民の森の駐車場に集合し、森づくりセンター内の「セミナールーム」において行われました。午前中は、まず「地球温暖化とびわこ地球市民の森」について、森林の働きや地球温暖化と森林の役割、びわこ地球市民の森の経過と今後の取り組みを中心に説明を受けました。その後、田上 知講師から「原木シイタケの作り方」についてパワーポイントとテキストによる講義を受けました。



今日の実習テーマは、「椎茸ホダ木への菌打ち」と「里山整備体験」の体験学習が組まれていました。まず、椎茸を育てるキノコについて学習を行いました。キノコは、枯れ木や切株に良く生えるために、その姿を見ても「木の子」とも呼ばれたこと、お酒を造るのに使われる酵母やカビなどと同じ「菌類」というグループに分けられていました。キノコは手孫を増やすために「胞子」をつくるが、その胞子ができる「子実体(しじたい)」の部分をキノコと呼んでいる。日本のキノコの種類は、1万種あるといわれ、菌生性の種類は、1万種ある。また、食用には「しいたけ、ナメコ」など

有毒キノコには「カエンタケ、スギヒラタケ」などがあります。特に、毒キノコは多いが、命に係わるものは約30種と言われ取り扱いは注意が必要です。今回、菌生性キノコの栽培で原木栽培を実習しました。その作り方は、①シイタケ原木に適した、クヌギ・コナラ・カシ・シイを用いた原木を1×1メートル位の切る原木に穴をあけるが、直径10センチの場合(直径×2が標準)4穴にシイタケの種駒を打ち込む。直射日光の当たらない場所に梅雨の前まで仮伏せする。6月通りの良い林の中に伏せをする。1年半後にはおいしく食べられる。



午後の実習は、平塚英史講師による「里山整備体験」を行いました。まず、セミナールームにおいて、びわこ地球市民の森の植樹に関する説明がありました。旧野洲川川敷の、面積42.5ヘクタールの「豊かな森」の広大な敷地は「出会いの森、里の森、ソノソノふれあいゾーン」などのゾーンなどに分けられています。これらのエリアごとに異なった木々を植樹し、その成長過程を定期的に調査しています。びわこ地球市民の森の育樹活動は、「植樹」、育樹し、利用できるように木を植えて森を育てることが、地球温暖化の抑制や災害をもたらし気象変動の緩和に寄与することから考えられています。この説明を受けました。

机上での説明の後は、ノコギリや剪定ハサミなどを持って現場に行き、枝落としや剪定などを行う実習を行いました。セミナールーム内で、作業ができるような服装に改め、センターがあらかじめ準備した作業用道具(ノコギリ、剪定ハサミ)を腰につけるなどの準備を行い、センター前に集合しました。

ウオーキングコースとして整備されたコトス赤坂、地球市民の森で一番高い「モリモリ山」に登頂。クヌギ、セダナ、エノキ、ムクノキなど、落葉広葉樹林や常緑広葉樹林が混在した緑葉樹林帯を見学しました。



ウオーキングコースとして整備されたコトス赤坂、地球市民の森で一番高い「モリモリ山」に登頂。クヌギ、セダナ、エノキ、ムクノキなど、落葉広葉樹林や常緑広葉樹林が混在した緑葉樹林帯を見学しました。



平塚先生を囲み、海拔99mの「モリモリ山」で記念撮影



剪定作業後の森 剪定作業中の森

■レイカディア大学米原校 サポート隊の活動について

園芸学科、北近江文化学科、健康づくり学科が行った必修・選択講座における手伝い全般的な課題学習や校外学習時の活動支援、大学祭やボランティアの日の開催日には、レイカディア大学の黄色い旗と共に数名の先輩が講師の補助をしてくれています。彼らは「レイカディア大学米原校サポート隊」として活動されています。米原校サポート隊は、平成23年4月27日に発足しました。その構成については、レイカディア大学米原校の卒業生等、レイカディア大学学長から「滋賀県レイカディア大学サポート隊サポート」を委嘱された者により構成されています。現在第6期目となり、奥長隊長のもとで活動されています。



サポート隊による講習会

編集後記
平成30年を迎え、あけましておめでとうございます。平成30年1月31日発行の「第39期園芸学科通信第16号」をお届けします。今回の選択講座は、昨年校外学習で行った守山市にある「びわこ地球市民の森」体験実習は、シイタケの原木をシイタケ菌の菌打ちを行った。机上講習で、食べられるキノコ、毒キノコを知覚を強めた後、ホダ木に穴をあけ、種駒の移植の作業を行った。市民の森は以前予定していたがボランティア活動による作業で先行して木を育てることは臨時では行えないので、息の長い活動が必要と感じることができた。園芸学科もサポート隊の手助けが必要不可欠です。ので、活動内容を掲載しました。(佳)